

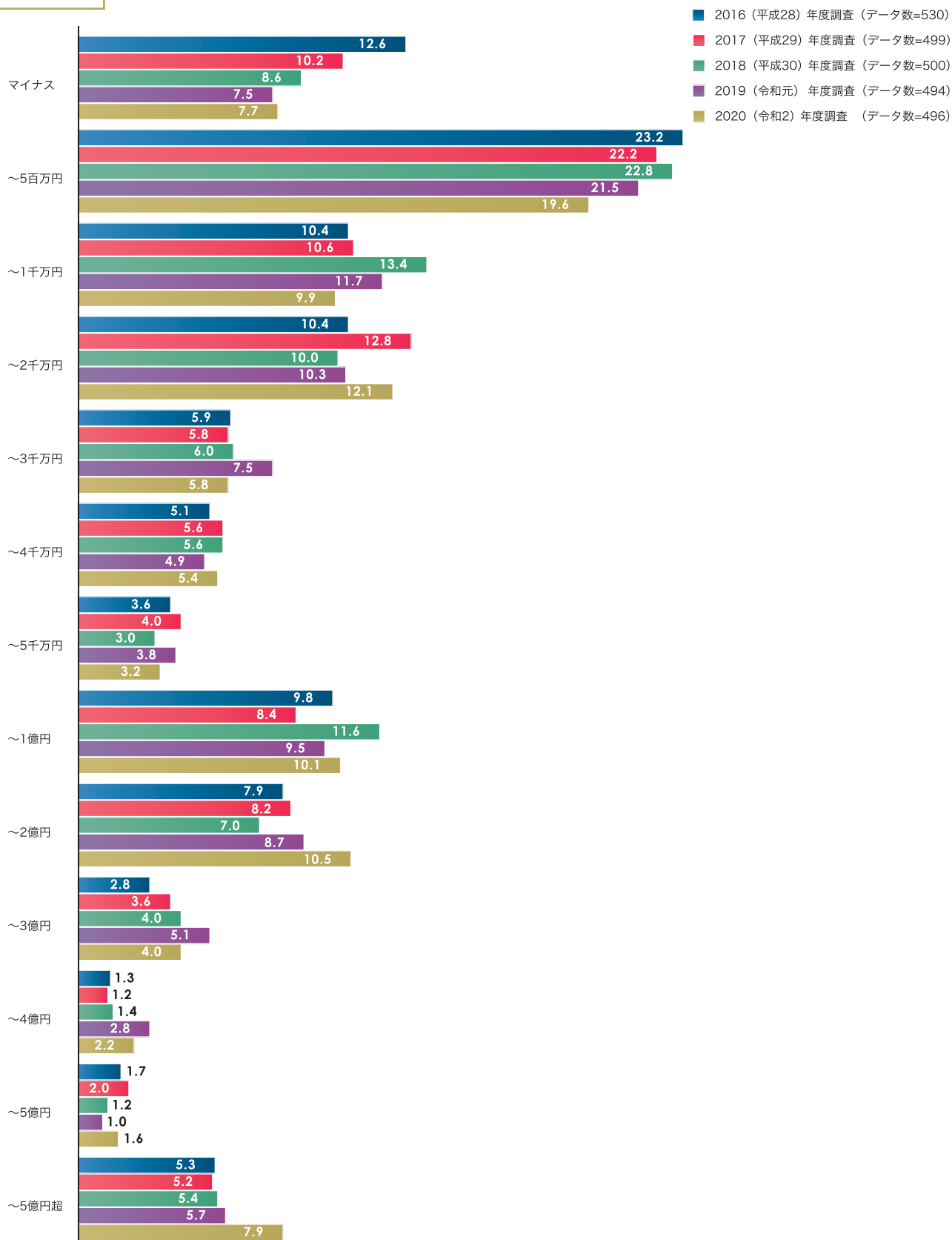
■利益

売上高と同様に補完データより2016年から2020年の5カ

年の利益金を確認したところ、5年間を通じて「500万円以下」の割合が突出して高い傾向であった。（グラフ11）

グラフ 11

利益推移（単位：％ ※補完データより）

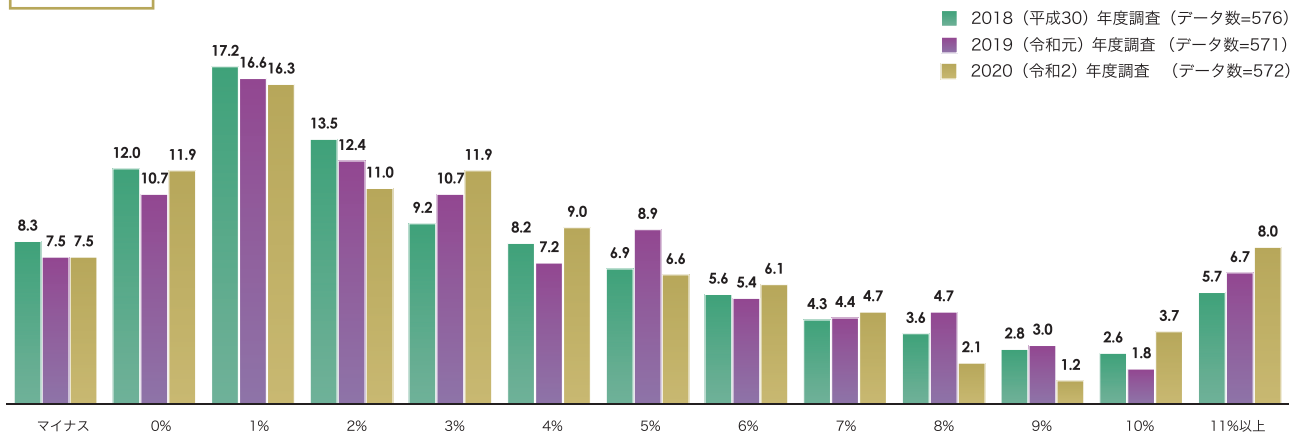


■利益の売上対比

補完データより利益を売上対比で確認したところ、過去の調査同様、「1%」（16.3%）が最も高い。

また「11%以上」が2年続けて上昇している傾向にある。（グラフ12）

グラフ12 利益の売上対比（単位：％ ※補完データより）

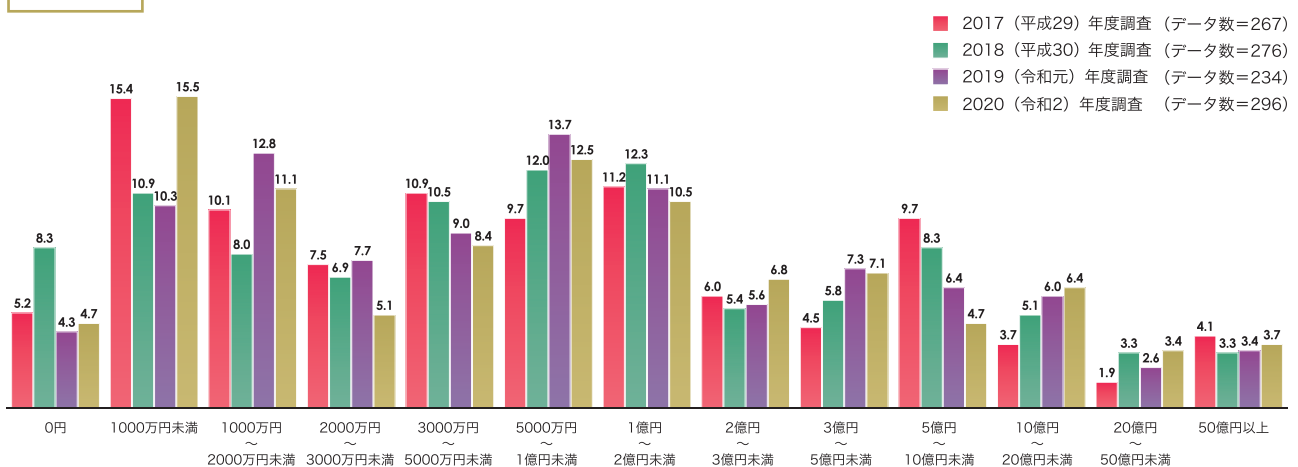


■設備投資額

本調査では、レンタル・リース物件の設備投資について確認している。

「1000万円未満」（15.5%）の割合が最も高く、昨年から約5ポイント上昇した。「5000万円超1億円未満」が12.5%でこれに続く。（グラフ13）

グラフ13 設備投資（レンタルリース物件）（単位：％ ※有回答絞り）



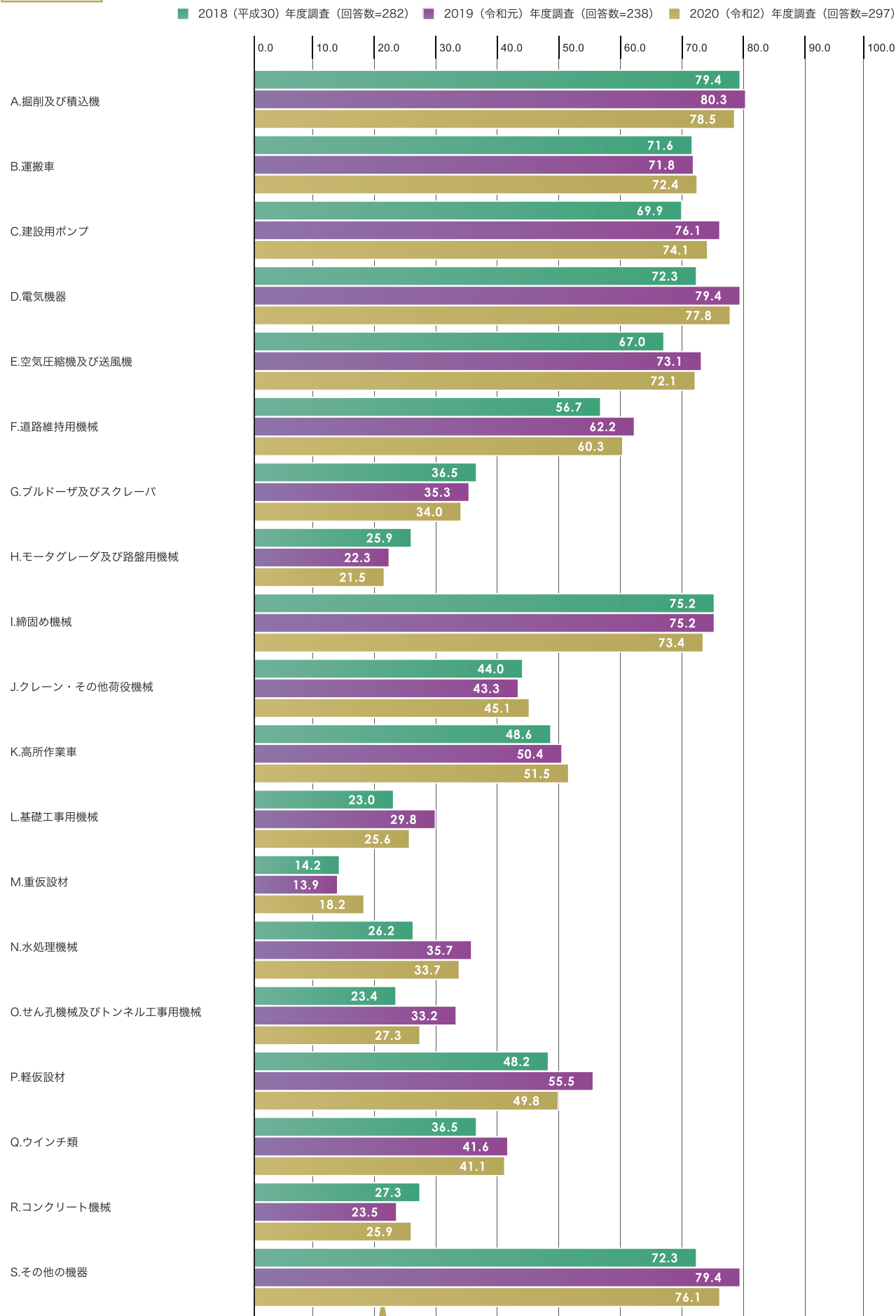
(3) 機材の保有状況と貸付部門売上高に占める保有機械・機材の売上高割合（中分類）

各社の建設機材について、19種類に分類した中分類ベースでの機材の保有状況<グラフ14>と貸付部門売上高に占

める保有機械・機材の売上高割合<グラフ15>を確認した。

保有状況<グラフ14>では「掘削及び積込機」が78.5%で昨年同様に最も多く、次いで「電気機器」（77.8%）、「その他の機器」（76.1%）、「建設用ポンプ」（74.1%）となった。

グラフ 14 機材の保有状況 (単位：% ※有回答絞り、複数回答)



また、貸付部門売上高に占める保有機械・機材の売上高割合<グラフ15>では「掘削及び積込機」では30-39%、「運搬車」では10-19%が最も多い結果となっているが、そ

れ以外の機械・機材では「水処理機械」を除いて1-9%が最も多くなっている。

グラフ 15 貸付部門売上高に占める保有機械・機材の売上高の割合 (単位：% ※有回答絞り)

